

特集・タイ法式による傳度式

謝辞

善光寺総代 伊藤喜三郎

本日は大本山總持寺監院斎藤老師、当代仏教界の碩学中村元先生はじめ遠近の諸大徳、同門の宗師等、大勢の方々にご隨喜賜わり、二つの法要がめでたく圓成いたしご同慶にたえない次第でございます。

尚善光寺は新寺建立にふさわしい、実に創業の智と才に恵まれた黒田方丈が次々と事業を開し檀家一同遅れてはならじと、協力して参りました。



加えて諸大徳各位のお引立てを蒙り、おかげをもちまして開創して二十年、いわばようやく成人に達したばかりではあります、三百年五百年の歴史を持つ寺々の間に伍して何とか特色のある寺として評価を受けるようになつたことは、檀家の一員として法悦至極に存ずるところであります。

思えば今から二十三年前のこと、私がインドに出かけました折、仏蹟参拝を終えて方丈さまに会つたのが最初の出会いでした。

それだけに本日の法要は当時を回想し、感無量なものがあります。

そして本日得度した四人のご子息が方丈さまの意を体して善光寺を今後一層の発展に導くであろうことを思う時、本日ご隨喜くださり、法要を盛りあげてくださった諸大徳各位に対しても自ら深甚の謝意が湧いて参ります。

そしてこれが本日だけでなく、末長く善光寺

をお引き立て下さいますようお願い申し上げ謝辞といたします。

